

ふじ女 令和4年5月度特別作品

USJ

ふじ女

USJ(ユニバーサルスタジオジャパン)は、大阪の淀川河口付近の南側、桜島にあるテーマパークで、二〇〇一年に開園しました。映画の世界を体験できるテーマパークで、様々なアトラクションやイベントがあります。開園当初は、ハリウッド映画の世界が中心でしたが、最近では、ゲーム、アニメも主流になりつつあります。二〇二一年にオープンしたスーパーニンテンドーワールドが今は人気を集めています。仮装したり、お揃いの服を着たり、カチューシャを着けたりなど、人々の遊び方、楽しみ方がいつも新しい場所です。

三月のパレード金髪のうさぎ

啓蟄や横一列のミニスカート

春めきし飛沫の水の上コースタ

向こう岸歓声遠く水温む

原色に黄砂降り積む遊園地

歓声と轟音渡る鳥曇り

木の芽風楽隊過ぎて紙吹雪

密集のものの芽上向きの花壇

陽炎は港の倉庫また倉庫

ここはまだ立ち入り禁止クローバー

《作品鑑賞》

亜矢

「USJ」は、作者の視点から、はっきりと外に向けられた作品である。

テーマパークにいなから、一歩引いた作者の立ち位置は、私にとっては新鮮だった。名詞止めの句がほとんどであることからも、勢いと歯切れの良さを感じる。

三月のパレード金髪のうさぎ

冒頭からインパクトのある句。おのずとワクワク感がわきあがる。

歓声と轟音渡る鳥曇り

アトラクションの音と、それに乗る人たちの声だろうか。人々の様々な感情を、季語に込めているように思った。

木の芽風楽隊過ぎて紙吹雪

一転して、全てがさわやかな句。しかし、時節柄胸にじんときるものがある。色とりどりの紙吹雪に祈りを込めたい。

友岡案山子 令和4年5月度特別作品

ドライブ

友岡案山子

早めに昼食を済ませ、良いものを見せてやると言う夫にハンドルを任せてドライブに行きました。途中、彼方此方に寄りながら鞆の浦へ。丁度夕日の落ちる時間に合わせてくれたらしく、「これよ。見せたいもんは」と夫。夕日が海を真赤に染めていました。その美しいこと。宍道湖の夕日とは違った夕日がそこにありました。潮風に頬を撫でられながら、心地の良い時間を過ごすことが出来ました。

滑らかに岩撫でて落つ春の水

幼子の一音に吹くしやばん玉

クローバー姉と摘みたるかの日かな

春嵐に向かつて傘を握りしめ

やうやくに一匂を得たり春の宵

畦道に揃へてありぬ早苗籠

鯉幟尾びれが枝に絡みたる

新茶の香しばし伏せたる匂集かな

鞆の浦真つ赤に染めて大夕焼

通信使見たであらうか鞆の夏

《作品鑑賞》

高尾ひとみ

あちこち寄り道をしながら、春の一日を、そして、俳句を楽しんでおられることがよく伝わってくる作品です。作者は熊野在住の筆づくりの職人。通信使の筆による額を見られたのでしょうか。書を見ると、それを書いた人に思いが及ぶのだなあ、と感心しました。それにしても、案山子さんご夫妻、いぶし銀の輝きです。

滑らかに岩撫でて落つ春の水

岩の上を滑らかに流れる川、山の中の景色だろうか。撫でるという言葉が、季語「春の水」らしい。

クローバー姉と摘みたるかの日かな

子ども頃、よく原っぱで花の首飾りをつくった。クローバーを見たときに、姉との思い出がありありと浮かんできたのだ。

通信使見たであらうか鞆の夏

朝鮮通信使は、鞆の浦を「日東第一形勝」と讃えた。息をのむその美しさ、燃えるような鞆の夕焼けに、遠い昔、かの地を訪れた異国の人に思いを馳せたのだ。